

令和元年 12月 10日 朝会の話（人権講話）

今日は、実際にあったお話をもとに、みんなで「人権を守る」ということについて考えてみたいと思います。

2007年、カナダのハイスクールでの出来事です。ハイスクールというのは、日本の中学校と高校が一緒になったような学校です。

ある日、ピンク色のシャツを着た男の子が登校してきました。



ここで問題です。

みなさんだったら、この男の子にどう接しますか？

近くの友達と話し合ってください。15秒です。どうぞ。

はい。

どんな話し合いがされたでしょうか。

- ① 別に何も言わないで、普通通りに接する。
- ② ピンク色のシャツを着ていることをからかう。

このとき、この男の子は馬鹿にされ暴力まで受け耐えきれずに家に帰ってしまいました。



ピンクの服を着ていたから、という理由で。

さて、ここで問題です。

みなさんだったら、この話を聞いたら、どんなことを考えたり行動したりしますか。

近くの友達と話し合ってみてください。30秒です。どうぞ。

はい。どんなことを考えたり行動したりしますか。

今度は、何名かに聞いてみたいと思います。

どんなことを考えたり行動したりしますか？

(3名ほど聞いて回る。)

この学校では、この話を聞いた上級生が

「いじめなんて、もう、うんざりだ!」「アクションを起こそう!」

と話し合い、その日の放課後、ディスカウントストアへ行き、75枚ものピンク色のシャツやビブス、タンクトップを買い込みました。



そして、その夜、メールなどを通じてクラスメートたちに呼びかけました。

「明日、一緒に学校でピンクシャツを着よう」と。

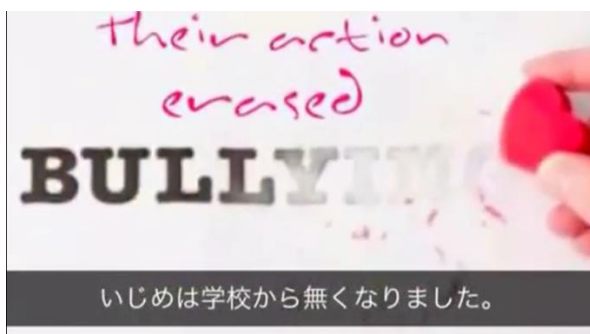


翌朝、2人は買い込んだピンク色のシャツを登校してくる友だちに配ろうと学校の入り口に立ちました。すると、2人の目には、信じられない光景が映りました。

なんと、登校してくるハイスクールの生徒のほとんどがピンク色のシャツや小物などを身に付けて来たのです。



このことをきっかけに、馬鹿にされ暴力まで振るわれた生徒はまったくいじめられなくなりました。



そればかりでなく、いじめに反対する意思を表す意味でピンクシャツを着ようという運動が世界中に広がりました。



さっき前山先生からいじめをなくすためにできることのお話がありましたが、「人権を守る」には、こんな「積極的な行動」もできるのだということをみんなに知ってほしくて紹介しました。

今日の話聞いて、何を考えましたか？

クラスに帰ったら話し合ってみてください。